

令和四年度

龍谷大学付属

平安中学校入学試験問題

受験番号

国語

解答上の注意

- 一. この問題用紙は「はじめ」の合図があるまで開いてはいけません。
- 二. 答えはすべて解答用紙の決められたところに書きなさい。
- 三. 解答用紙の決められたところに受験番号を書きなさい。氏名を書いてはいけません。
- 四. 問題を読むときに、声を出してはいけません。
- 五. 問題内容についての質問は受けません。
- 六. 印刷が読みにくいときは手をあげて監督者を呼びなさい。
- 七. 「やめ」の合図があったら解答用紙をおもて向け、問題用紙を解答用紙の上に置いて、回収が終わるまで席を離れてはいけません。（問題を持ち帰ることができません）

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

道ばたにひっそりと咲く雑草の花に、心打たれるときがあるかも知れない。

A、野生の植物が花を咲かせるのは、人間に見てもらわなければならない。昆虫を呼び寄せてXを運ばせるためである。人知れず咲く小さな雑草の花であっても、それは同じである。すべての花は昆虫を呼び寄せるためにあるのである。

美しい花びらや甘い香りも、すべては昆虫にやってきてもらうためのものなのだ。そのため、花の色や形にも、すべて合理的な理由がある。花は、何気なく咲いているわけではないのである。

B、① 春先には黄色い色の花が多く咲くようになる。

黄色い花に、好んでやってくるのはヒラタアブなど小さなアブの仲間である。もちろん、人間には黄色い色に見えても、昆虫に何色に見えているかは、昆虫に聞いてみないとわからない。よく昆虫には紫外線が見えるという話がある。黄色い花は紫外線が少ないので、紫外線が少ないというのが、アブが好む特徴なのかも知れない。

アブは、まだ気温が低い春先に、最初に活動を始める昆虫である。そのため、春先の早い時期に咲く花はアブを呼び寄せるために、黄色い色をしているのである。

C、アブが好むから黄色い花を咲かせるようになったのか、黄色い花が多くなって、アブが黄色を好むようになったのかは、Yで、よくわからない。

しかし、春先には黄色い花が咲き、黄色い花にアブが来るといふ植物と昆虫との約束事ができあがったのである。

D、アブをパートナーとするには、②問題があった。ミツバチのようなハナバチの仲間は、同じ種類の花々を飛ん

で回る。

ところが、アブはあまり頭の良い昆虫ではないので、花の種類を識別するようなことはしない。そして、種類の異なるさまざまな花を飛び回ってしまうのだ。これは植物にとっては、都合の良いことではない。

同じ黄色い花だからと言って、タンポポの花粉がナノハナに運ばれても、種子はできない。タンポポの花粉は、タンポポに運んでもらわなければならないのである。

それでは、アブに花粉を運んでもらう植物は、どうやってきちんと花粉を運んでもらえば良いのだろうか。

これは難題である。しかし、野に咲く雑草であっても、この難問を解決しているのだから、すごい。

じつは、春先に咲く黄色い花は、集まって咲く性質がある。集まって咲いていけば、アブは近くに咲いている花を飛んで回る。そうすれば、結果的に同じ種類の花に花粉を運ぶことになるのである。

特に、小さなアブは飛ぶ力がそんなに強くないので、まとまって咲いていけば、近場の花を回ってくれる。

こうして、春先に咲く野の花は、集まって咲く。春に、一面に咲くお花畑ができるのは、そのためなのである。

黄色い花は、アブをパートナーとして花粉を運んでもらっていた。

一方、紫色の花はミツバチなどのハナバチをパートナーに選んでいる。ミツバチは紫色を好む。紫色の花は紫外線も多いから、ハチは紫外線を合図にして紫色を選んでいるのかも知れない。

ミツバチなどのハナバチは、植物にとっては、③もっとも望ましいパートナーである。

何より、ミツバチは働きものだ。ミツバチは女王蜂を中心と

して家族で暮らしている。そのため、自分の餌^{えさ}だけでなく、家族のために花から花へと飛び回り蜜^{みつ}を集めるのだ。つまり、植物にとっては、それだけ、たくさんの花粉を運んでもらえることになる。

さらにハチは頭が良く、同じ種類の花を識別して花粉を運んでくれる。また、ハチは飛翔^{ひしょう}能力が高いので、遠くまで飛ぶことができる。そのため、ハチが花粉を運んでくれる植物は、離れて咲いていても、しつかりと花粉を運んでもらうことができるのである。

この優秀^{ゆうしゅう}なパートナーを惹^ひきつけるために、ハチを呼び寄せ、花は、たつぷりの蜜を用意してハチを出迎^{でむか}える。

ところが、これには問題があった。

蜜をたくさん用意してしまうと、ハチ以外の他の虫も集まってくる。せつかく奮発^{ふんぱつ}して用意した蜜を他の虫に奪^{うば}われてしまうのだ。

紫色の花は、どうやってハチだけに蜜を与えることができるのだろうか。

人気のある学校に入るためには、「入学試験」というものがある。

じつは、紫色の花も、蜜を与える^④昆虫を選^えぶための「選抜試験」を行うのである。

紫色の花は、複雑な形をしているのが、特徴である。この複雑な形が、まさに入試問題である。

身近な雑草であるホトケノザの花を観察してみることにしよう。

ホトケノザは、スマレやタンポポほど知られていないかも知れないが、小学校の生活科の教科書でも紹介^{しょうかい}されるほど、身近に見られる雑草である。

ホトケノザは小さな花だが、よく見ると、なかなか美しい花

を咲かせている。

下の花びらには、斑点^{はんてん}のような模様がある。これが、蜜のありかを示す「蜜標^{みつひょう}」と呼ばれるものである。蜜標はガイドマークや、ネクターガイドとも呼ばれている。この蜜標を目印にして、ハチはこの花びらに着陸する。下の花びらはまるでヘリポートのような役割を持つているのだ。ホトケノザは、ミツバチが訪^{おとず}れるのには小さいが、小さなハナバチが訪れる。そして、花びらに着陸すると、ちようど着陸した飛行機を誘導^{ゆうどう}するラインのように、花の奥^{おく}に向かって蜜標が続いている。この道しるべに従って、花の奥深くへと進んでいくと、花の一番深いところに蜜があるのである。

横からホトケノザの花を見ると、花の形が細長く、花の中が奥深くなっている。じつは、この狭^{せま}い中に潜^{もぐ}り込んで行って、後ずさりして出てくるというのが、普通^{ふつう}の昆虫は得意ではない。これに対して、ハチは花の奥深くへ潜^{もぐ}っていくことを得意としているのである。

蜜標が蜜のありかを示すサインだということが理解できる頭の良さ、そして花の奥へと入っていくことのできる勇気と体力を持った虫だけが、蜜にありつくことができる。

こうしてホトケノザは、知カテストと体力テストによって、パートナーとしてふさわしいハチだけに蜜を与えることに成功しているのである。

ホトケノザだけでなく、紫色をした花は、どれも蜜標や奥に深い構造をしている。

スマレを見てみることにしよう。

スマレも下の花びらに白い模様がある。そして、花の奥深くへと潜り込めるようになっていく。スマレの花を横から見ると、花の奥を長くするために、茎^{くき}が花の付け根ではなく、真ん中あたりについていて、やじるべえのようにバランスを保っている

ことがわかるだろう。

もつとも、最初からハチが花に潜るのが得意だったのかは、わからない。ハチだけが潜れるように花は長く Z し、花に潜るように、ハチも Z をしていく。そうして難易度を上げながら、ついには他の昆虫はたどりつけず、ハチだけが蜜を得られるように Z しているのである。こうして植物とハチとは共に Z を遂げてきたのである。

(稲垣栄洋 『雑草はなぜそこに生えているのか』)

問 1

最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|---|------|---|------|
| ア | A | しかし | B | たとえば |
| イ | C | もつとも | D | ただし |
| ウ | A | ところが | B | だから |
| エ | C | ただし | D | つまり |
| | A | もちろん | B | ただし |
| | C | たとえば | D | しかし |
| | A | たとえば | B | もちろん |
| | C | だから | D | ところが |

問 2

X にあてはまることばとして、最もふさわしいものを文中から漢字二字でぬき出しなさい。

問 3

線①「春先には黄色い色の花が多く咲く」とありますが、なぜですか。その理由として、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 春先の太陽の光を浴びて、花が黄色くなったから。
イ 紫外線が少なく、黄色の花しか咲かせられないから。
ウ 多くの虫の中でも、アブだけに來てほしいから。
エ 気温が低くても活動するアブは、黄色い花を好むから。

問 4

Y にあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 卵が先か にわとり 鶏 が先か
イ 似たり寄ったり
ウ アブハチ取らず
エ 馬の耳に念仏

問5 ———線②「問題があった」とありますが、花にとってどのような「問題」があったのですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 黄色い花にしか集まらず、他の色の花には興味をもたないという問題。

イ 黄色い花であれば、種類の異なるさまざまな花を飛び回ってしまふという問題。

ウ 紫外線が少ない春先に活動し、黄色い花と他の色の花の区別がつけられないという問題。

エ アブとミツバチとが競い合うことで、花粉が混ざり合ってしまうという問題。

問6 ———線③「もっとも望ましいパートナーである」とあります。それはなぜですか。理由としてふさわしいものを、次の中から二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア 春先に集まって咲く、黄色い花の花粉だけを運んでくれるから。

イ 近くに集まって咲いている同じ色の花からだけ、花粉を運んでくれるから。

ウ 家族のために多くの花を飛び回り、たくさんの花粉を運んでくれるから。

エ 遠く離れたところから、同じ種類の花粉を運んでくれるから。

オ 複雑な形の花だけを好んで、たっぷりの蜜を運んでくれるから。

問7 ———線④「昆虫を選ぶための『選抜試験』」とありますが、どのような力をためそうとしていきますか。ふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア せまい花の中に入る勇氣と体力。

イ 遠くへ飛ぶことのできる力。

ウ 同じ種類の花を見分ける力。

エ 色を見分けることのできる力。

オ 蜜のありかを見つける力。

問8 Zにあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 改良 イ 成長 ウ 進化 エ 変動

問9

線「花の色や形にも、すべて合理的な理由がある」とありますが、「合理的な理由」のためにとつた「花の色や形」としてふさわしいものを、次の中から二つ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ア 春先に活動するアブにやってきてほしいために黄色い花を咲かせること。
- イ アブに目立ちやすくするためにかたまつて黄色い花を咲かせること。
- ウ 植物自身が多く紫外線を放つために黄色い花を咲かせること。
- エ ハチだけに蜜を吸わせるために複雑な花の形をしていること。
- オ 大きな虫が来ると蜜がなくなるので小さな虫しか着陸できない「蜜標」を持つていること。
- カ 同じ種類の花に花粉を運んでもらうために覚えられるような形をしていること。

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

北海道の村にある、村立生田羽中学校生田羽分校の生徒は、中学三年生一名と一年生四名の五名だけだ。一年生の松本憲太と江崎学は物心ついたときからいつも一緒だったが、学が小学六年生の時に、全国学力テストで好成绩をおさめてから勉強に力を入れ始め遊ぶ機会が減少した。中学入学直前の春休みや夏休みは村を離れて札幌にある塾に通い、春の模擬試験では北海道全体でトップの成績をとっていたが、夏の模試結果は五位と順位を落とした。今日は中学校の本校校舎で『夜空を見る会』が開催され、学と久しぶりに出かけられることを喜んでいた憲太だが、学校に到着して間もなく学は姿を消してしまった。落雷で停電した校舎内を探し歩いた憲太は、誰もいない図書室で雷に怯えながら勉強している学を見つけた。

学がべそをかく顔なんて、いつぶりに見ただろう？ 見たとしたらたぶん、小学校に上がる前だ。学と聞いて憲太が頭に浮かべる彼の表情は、最近では暗記カードや教科書などを睨みつけるようにしているものと、いかにも※頭脳明晰そうにまつすぐ前を見つめる横顔、それから、こちらを振り向いて心底嬉しげに笑う顔——それらだ。

いやそれよりも、なぜ、涙ぐんでいるんだろう。

「おい……おまえ」

「わかるわけないよ……憲太は、両親もおじいさんもおばあさんも、ずっとこの村じゃないか。でも僕は違う。親が勝手に……田舎に変な夢抱いて、こんな村に来て」

村おこしの一環として、十数年前に農地を無償で貸し出すと都会から若夫婦を誘致したのは、※憲太の祖父の策だった。

「うちの親がそのまま都会に来てくれたら、僕の今はきっと違ってた。こんな村じゃ、十分な勉強なんてできない。札幌や大きな街の子は、なんの苦勞もなく進学塾や予備校に通っている。ネットの授業配信も、もう少し先だっていうし」

①泣きべその理由を推しはかりながら、憲太は学をとりあえず励ましてみた。

「でもおまえ、今でも十分すごいじゃん」

「どこがだよ！」

ア

大声を出した学の頬を伝い、細い顎の先からしずくが落ちる。

「成績は下がったんだよ、僕は僕なりにやったつもりだったのに……僕より上のやつらは、みんな都会の子だった。彼らと同じことをやれたら、絶対負けなかったのに」

学は顎を手の甲で拭いながら、進学塾のテキストを拾い上げた。

「環境が違うんだ、勉強する環境が……こんな田舎にいるって、それだけですごい※ハンデだ。このままなら、きつとこれからもどんどん成績は下がる。成績が下がれば、望む高校に行けないかもしれない、大学にだって」

そして、苦しげに絞り出すような声で、こう断じた。

「真つ暗だ。生田羽村が、僕の未来を閉ざすんだ」

ああそうか——憲太は②腑に落ちた——こいつは悔しいんだ。悔しくて泣いているんだ。自分ではどうにもならないことが自分を邪魔していると信じ込んで。

※眼鏡を外して肘をつき、両手で顔を覆って、学はどうとう鳴咽しだした。憲太は暗さにまぎれてしまいそうな彼の※つむじを、しばらく睨んだ。

「……だっせ。めそめそしやがって」

口から出た声は、憲太自身も驚くほどに低かった。

「おまえの未来って、なんだよ」

その低さで、内にくすぶる怒りを憲太は自覚した。学も異変を悟ったのか顔を上げた。

「どんな未来がお望みなんだよ、言ってみろよ、おい」

そういえば、学の将来の夢を憲太は知らないのだった。憲太も教えていなかった。というか、真面目に考えたことがなかった。学校でそういった課題の作文を書かされたこともなかった。

学の未来については、村の大人たちが口々に好き勝手なことを語るのを耳にするだけだった。

「……医師」

学も低い声で一言答えた。

「は？ イシ？」

イ

「医師。お医者さんだよ、※久松先生みたいな」

子どもころから世話になっている、穏やかで優しいようなおじいさん先生の像が、憲太の頭の中で結ばれた。

また雷が連続して落ちた。学の喉が、ひゅつと鳴った。

なるほど、医者なら難しいだろう。難しくなければ困る。人の命を預かる仕事なのだから。でも。

「俺、今のおまえみたいなお医者さんなら、診てほしくない。ほんとマジ、絶対やだね」

ウ

「だって今のおまえなら、手術失敗しても、器具が悪かったとか、とにかく上手いかなかったら周りのせいにしそうじゃん」

「なんだって？」

学が眉を上げ席を立ち、上目遣いで「ねめつけてきたが、憲太は動じなかった。

「おまえ、さっき言ったこと忘れたのかよ？ 自分の成績が落

ちたのを生田羽村のせいにしてた。こんな田舎だから駄目なんだってさ」

右手が勝手に動いて、向かい合う学の肩を掴んでいた。

「バツカじゃねえの？ 久松先生だつてこの村の出身だぞ。そりゃたしかにここは田舎だよ。でも、それだけの理由でおまえが駄目になるなら、それはおまえがその程度だっただけだよ。全世界のお医者さんは一人残らず都会出身なのかよ？ 違うだろ？ 本当にすごいやつは、どこにいたってちゃんとやれる」

「でも」

学が反論しかけた矢先、落雷があつた。手の中にある彼の肩が強張るのがわかつた。憲太はまた窓の外を見てしまった。空が明るくなるごとに、一面を覆う雷雲の形が、黒と群青と紫を混ぜたような色で浮かび上がる。

「でも……僕のことを I すごいと言つたのは、僕じゃない。大人たちや、憲太だよ」

憲太の右手が、そつと学の右手で押しつけられた。冷たい手だつた。

「大人にはなんと噂されてもよかつたけど、憲太が言つてくれたのは嬉しかった。だから」

ずつと、X——学は b 打ちひしがれたみたいになつた。

「あ……僕、憲太のせいにしたね」

2 学はもう泣き声をたてなかつた。ただ、両手で顔を拭い続けた。雷が夜を走るたびに、唇を噛みしめ、目の下や頬に指や手の甲を押し当てる青白い顔が見えた。憲太はだんだんと不思議な気分になつた。学はクラスの中でははつきりと大人っぽい部類に入る。本校の生徒を含めてもそうだし、実際に目にしたわけではないけれど、札幌の進学塾のクラスでだつて、群を抜いて冷静で落ちつき払つた雰囲気だつた。けれども今、

自分の前にいる学は、まるで子どもだつた。※ 雷に怯えて目を閉じ、耳をふさいでいた、遠い日のように。

そうか、嬉しかったのか。俺の言葉が。

もう何度目かわからない稲光と轟音が襲う。雷が光るたびに、幼かつたころの学が今の学と重なり、さつきまでの腹立ちほどこへやら、憲太は自分でもわけがわからぬまま、3 笑つていた。

「俺さ、おまえのことすごいって言つたけどさ、別におまえが勉強すごいから友達なんじゃないよ」

学の手が止まる。憲太は続けた。

「俺は学が※神童だから好きなんじゃない。おまえがブサイクでも頭悪くても、おまえがおまえならそれでいいんだ」

「憲太……」

「テストの成績がすごいと思つたのは嘘じゃないよ。学が褒められるのもすげえ嬉しい。でも俺、おまえの本当にすごいところ、別にあるのを知つてる」

「え？」

「春休みさ、おまえいなかっただろ？ だから俺、※ビートの

※ 間引き作業、一人で手伝わされたんだよな」

稲妻にたい言葉の切り、窓の外へと目をやった憲太を、学が

遠慮がちに急かした。

「……間引き作業がどうかしたの？」

「ああ、それな。あのさあ、間引き作業つてすげえ面倒くさくてつまんねえの。おまえ、知つてた？」

「まあ、Y っつていうよね。うちの親は好きじゃないって言つてた」

「だろ？ おまえは？」

エ

「僕は別に好きでも嫌いでもない」

「俺もそうだった。でも俺さ、今年初めて、うわ、この作業つまんねえって気づいたんだよ。それまでは間引き作業を嫌いじゃないと思ってた。うんざりなんてしなかったからさ。でも、本当は嫌いだつたみたいなんだ」

学は頷いた。「それで？」

「でさ、なんで今まで毎年やってきて、嫌いだって気づかなかったのかなんて考えてみてさ、俺わかったんだよ」

憲太は学の胸元を人差し指で軽く押した。「去年まで、おまえと一緒にやってたからだって」

③虚を突かれたような学表情が、稲光に照らされる。その光の力を借りて、憲太は学の目を覗き込む。

「そうだよ、隣におまえが、学がいたから、『嫌い』や『つまんねえ』がごまかされていたんだ。おまえと一緒にやったから、あの間引き作業もそれなりに楽しかったんだ」

ただでさえ停電中のうえ、裸眼の学は視界がうまくとらえにくいのか、目を凝らすようにじつと憲太を見返してくる。

「僕も、嫌いだと思つたことはない……」

「来年おまえ、一人でやってみろよ。びつくりするほど時間経たねーから。あ、来年もおまえ札幌行くのか？」

学は特になにも答えなかった。構わなかった。憲太は心の内をそのまま言葉にした。

「とにかく俺、思つたんだ。友達つてすげえんだなあ、つて」嫌いだつたりつまらなかつたりする時間も、一緒にいさえすれば、乗り切れる。

楽しみすら、見出せるかもしれない。

そういう力を持つ、自分にとつてたつた一人の相手。

「おまえが本当に II すごいのは、そういうところだよ」学は静かに顔を伏せた。

(乾ルカ 『願いながら、祈りながら』)

※(文中のことばの意味)

頭脳明晰 : 頭がよくて、考えがはっきりしていること。

無償 : 無料。

誘致 : 招き寄せること。

憲太の祖父の策 : 憲太の祖父が生田羽村の村長をして

いたところに実行したこと。

ハンデ : ハンディキャップのこと。不利な条件。

嗚咽 : 声をつまらせて泣くこと。

つむじ : 主に頭頂部に見られるうずを巻いている部分。

久松先生 : 生田羽村の医者。

ねめつけて : 睨みつけて。

雷に怯えて目を閉じ、耳をふさいでいた、遠い日のように

: 小学校入学前の夏のある日のこと。憲太は、自分が捻挫

して歩けなくなった時に急な雷雨に見舞われ、落雷が

ある度に身をすくませ、目をつぶっていた学のことを

思い出した。学が医師を目指すきっかけとなるできごと。

と。

神童 : 特にすぐれた才能をもつた子ども。

ビート : 植物の一種。

間引き : 植物の良好な生育のために、不必要な芽を引き

ぬくこと。

問1

~~~~~線①②③のことはについて、文中における意味として最もふさわしいものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

① 腑に落ちた

ア 疑問を持った

イ 否定した

ウ 思い出した

エ 理解した

② 打ちひしがれた

ア がっかりした

イ 気にしなかった

ウ 気力が満ちてきた

エ つらい思いをした

③ 虚を突かれた

ア ひどい仕打ちを受けた

イ 期待を裏切られた

ウ 想像もしていなかった

エ 苦痛をあたえられた

問2

——線①「泣きべそ」とありますが、この時の学はどのような気持ちですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 都会の子の学習環境と比べて不利な環境で勉強することによって、周囲の要求に応えられるような成績を出せず苦しい気持ち。

イ 都会の子の学習環境がめぐまれていてうらやましく、成績下降の原因が自分にはどうにもできないことで悔しい気持ち。

ウ 都会の子に負けないほどの学力の高さに自信を持っていて、勉強したにもかかわらず成績を落とした自分が腹立たしい気持ち。

エ 都会の子と同じような環境で勉強しなくても将来の進路を決められると証明したかったのに、成績を落として反省する気持ち。

問3

□Xにあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 村で一番優秀な医者にならなければいけないと思った

イ 大人たちのために勉強しないといけないと思った

ウ 誰よりすぐくあり続けなくてはいけないと思った

エ これからも仲の良い友人で居続けたいと思った

問4 ———線②「学はもう泣き声をたてなかった」とありますが、なぜですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア だんだんと腹立たしくなってきたり憲太の様子を見て、これ以上責められるのは時間のむだだと思ったから。
- イ 幼なじみである憲太に将来の夢を語ることができ、悩んでいた気持ちが解消されて楽になったから。
- ウ 憲太が自分のために必死になって励ましてくれたおかげで、この村を出て行く決心をつけることができたから。
- エ 憲太が言うように、将来の見通しが立たない理由を周りのせいにする自分の考えの甘さに気づいたから。

問5 ———線③「笑っていた」とありますが、憲太の心情はどのように変化していますか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 勉強に追い込まれていた学の言動に対し我を忘れるほど怒っていたが、自分が知る幼いころの学のままだと気づいて安心している。
- イ 勉強に追い込まれていた学の発言を聞いて無意識にいら立っていたが、学の何も聞き入れようとしていない態度に失望している。
- ウ 勉強に追い込まれていた学の態度を見て親友として期待していたが、雷に怯える昔のような幼さが頼りなく思えて不安になっている。
- エ 勉強に追い込まれていた学の同級生とは思えない冷静な様子に不信感を抱いていたが、自分の忠告を素直に聞き入れてくれたので信頼している。

問6 Yにあてはまることばとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 派手だが遅々として進まない作業
- イ 派手で着々と進められる作業
- ウ 地味で遅々として進まない作業
- エ 地味だが着々と進められる作業

問7 ———線Ⅰ・Ⅱ「すごい」とありますが、それぞれ何が「すごい」のですか。最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア Ⅰは成績優秀な学が村人たちからの期待を背負わされていることで、Ⅱは学の性格が人を選ばず誰とでも仲良くできること。
- イ Ⅰは学が停電で何も見えない中でも熱心に勉強していることで、Ⅱは学が学力をのばすために都会の進学塾に通っていること。
- ウ Ⅰは学の成績がたいへん優秀であることで、Ⅱは憲太にとって学が退屈な時間も楽しく感じさせてくれる唯一の存在であること。
- エ Ⅰは学が村出身で初めての医者を目指すことで、Ⅱは憲太にとって学が嫌な時間を一緒に過ごせるたった一人の友人であること。

問8 文中から次の二文がぬけています。どこにあてはめるのがふさわしいですか。文中の ア から一つ選び、記号で答えなさい。

雷が落ちたみたいに、学の体がびくつとなった。憲太は  
たたみかけた。

問9 「憲太」と「学」の人物像を説明したものとして、最もふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 学は札幌から親の都合で田舎に引っ越してきたため、憲太や村の人たちを見下しており、成績が優秀であることを自慢げに語るいやらしい人物。

イ 田舎で過ごすことよって生じた学の悩みを聞く憲太は、厳しい口調で問いつめながらも、相手のことを真剣に考えられる思いやりのある人物。

ウ 都会から引っ越してきて友人の少ない学は、頼りにしている憲太からの励ましによって、自分のいたらかなさに気づくことができる素直な人物。

エ 生まれも育ちも生田羽村である憲太は、学の苦悩を理解することができないので、田舎の良さを伝えることで納得させようとする健気な人物。

問10 この文章の表現について説明したものとして、ふさわしくないものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 空模様や雷の様子といった情景描写は、学と憲太の意見が衝突する場面で際立つだけでなく、幼少期の記憶を想起させ二人の関係を物語るには欠かせない表現である。

イ 田舎に住むことに強いこだわりをもっている憲太と、都会への憧れを抱く学の心理を対比的にとらえ、テンポよく一方的に語りかける憲太に優位な印象を与えている。

ウ 会話文に「……」が多用されており、両者がそれぞれの発言において考えている間や、涙を流している最中の発言であることを想像させる効果がある。

エ 雷の稲妻や稲光というわずかな機会によって、互いの思いを打ち明けており、離れていた心が次第に通い合っている姿が描かれている。

三 次の①～⑤の慣用句と同じ意味の熟語を、あとから一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ① つめに火をともし。
- ② 後ろ指をさす。
- ③ 目から鼻にぬける。
- ④ かたを貸す。
- ⑤ 首をひねる。

|   |    |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| ア | 快適 | イ | 利口 | ウ | 助力 | エ | 激痛 | オ | 骨折 |
| カ | 心配 | キ | 節約 | ク | 疑問 | ケ | 非難 | コ | 人気 |

四 次の——線のカタカナは漢字に直し、漢字は読みを答えなさい。

- ① 大統領センヨウ機で移動する。
- ② 親コウコウに努める。
- ③ 行進の列がミダれる。
- ④ 政治のジツケンをにぎる。
- ⑤ クラスメイトと役割をブントする。
- ⑥ ベランダにふとんを干す。
- ⑦ 驚きのあまり閉口する。
- ⑧ 誠実な人がらにひかれる。
- ⑨ 晩秋の夜はとても静かだ。
- ⑩ サプリメントで栄養不足を補う。

これで問題は終わりです。